

とちぎの道路・交通ビジョン

～県土60分構想2016～



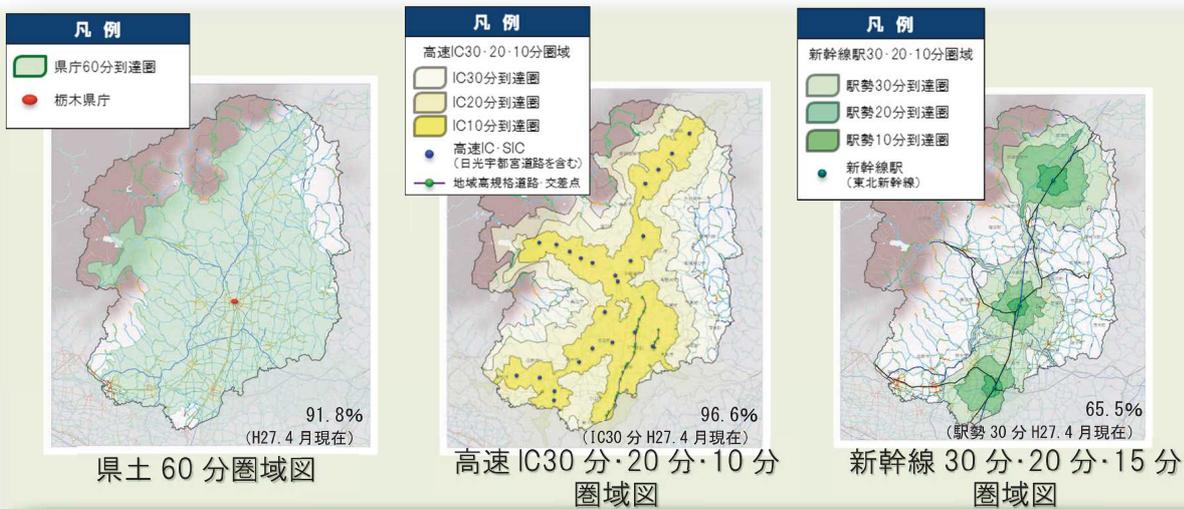
栃木県

1 はじめに

「とちぎの道路・交通ビジョン～県土60分構想2016～」は、新しい栃木県の重点戦略である「とちぎ元気発信プラン」が掲げる将来像の実現に向けた「道路・交通分野」における施策の方向性を示すものです。

① 「とちぎの道路・交通ビジョン～県土60分構想2016～」の概要

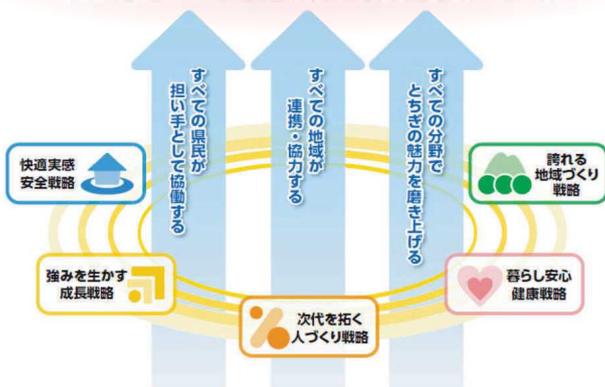
平成22年度に策定した「人にやさしい県土60分構想」では、近年、顕在化してきた「少子高齢化の進行」、「グローバル化の進展」、「環境問題の深刻化」の3つの社会情勢の変化への対応の視点を踏まえ、人の移動の重要性に着目し、「人の移動の安全性・快適性・定時性の向上」を目標に掲げ、県土60分到達圏域やIC30分到達圏域の拡大に向け、道路整備や公共交通の充実に取り組んできたところです。



本構想では、平成28年2月に策定された、新しい栃木県の重点戦略「とちぎ元気発信プラン」に掲げる将来像「人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な“とちぎ”」の実現のため、2020年のオリンピック・パラリンピック等を見据えた上で、前構想において着目した人の移動に加え、①市町内の「地域を支える交通ネットワーク」と②県内の市町域を越えた「県内各拠点をつなぐ交通ネットワーク」と③全国・海外へ広がる「全国・海外と連携する交通ネットワーク」を相互に機能させることにより「暮らしや産業・観光を支え、災害に強い」元気な“とちぎ”ネットワークを構築することで「すべての人にとって安全・安心・快適な移動手段」の確保を目指していきます。

人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な“とちぎ”

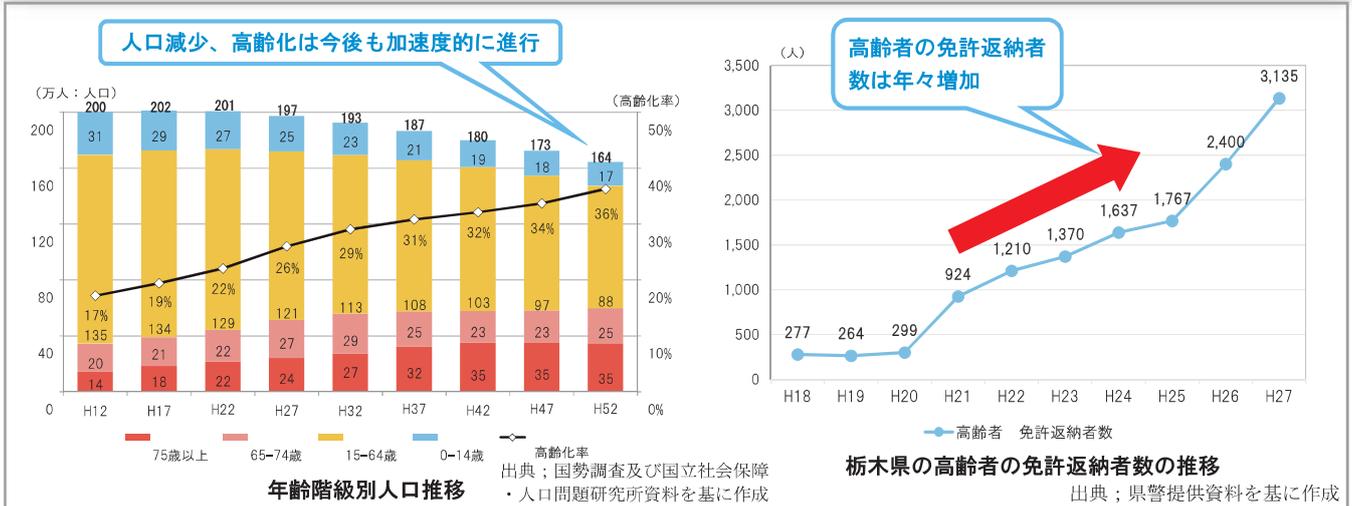
すべての人にとって安全・安心・快適な移動手段の確保



2 交通ネットワークを取り巻く現状・課題

① 社会情勢等の変化

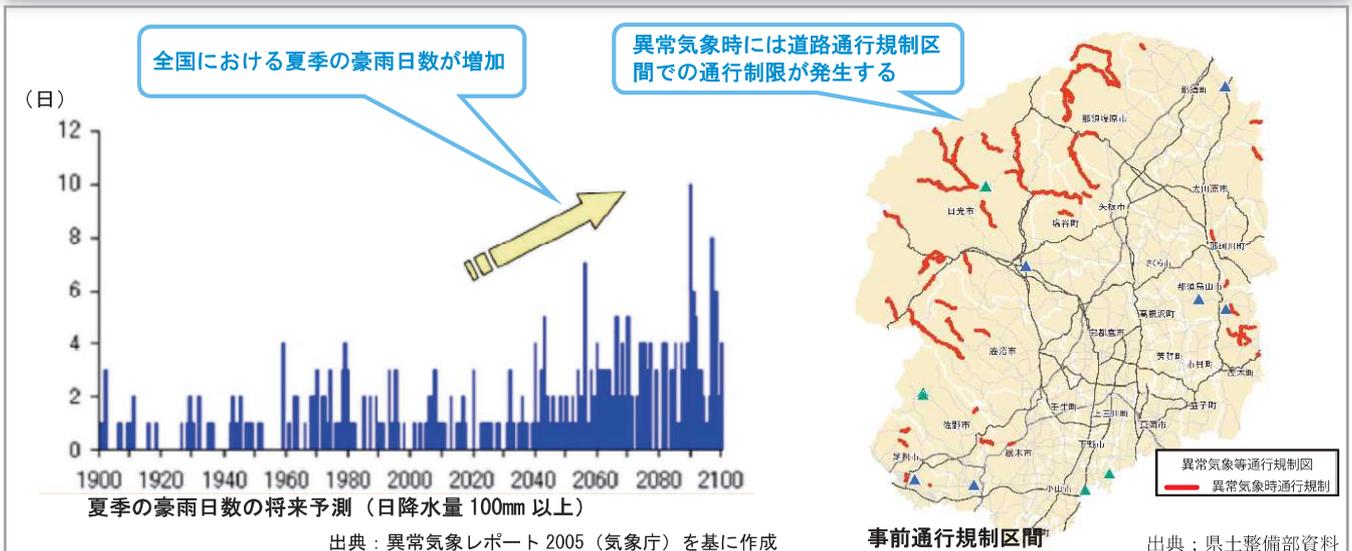
人口減少・高齢化が進展しているため暮らしを支える交通網が必要



経済活性化や魅力アップのためより一層の産業・観光を支える交通網が必要



全国的に頻発している自然災害に強い交通網が必要



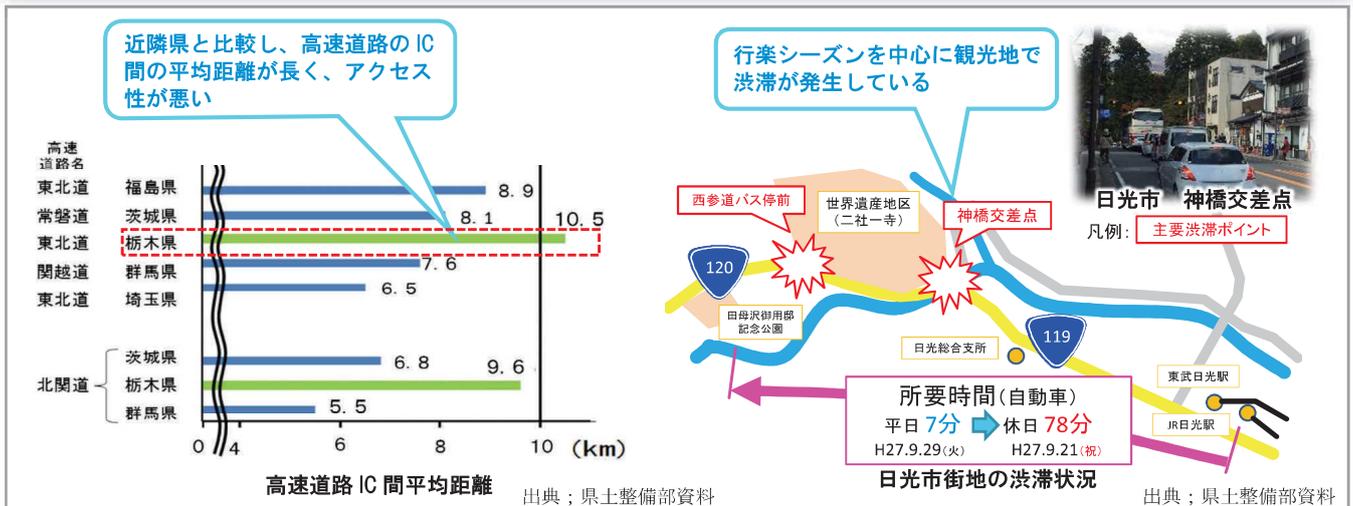
② 道路ネットワークを取り巻く現状・課題

地域の暮らしを守る道路網の整備が必要

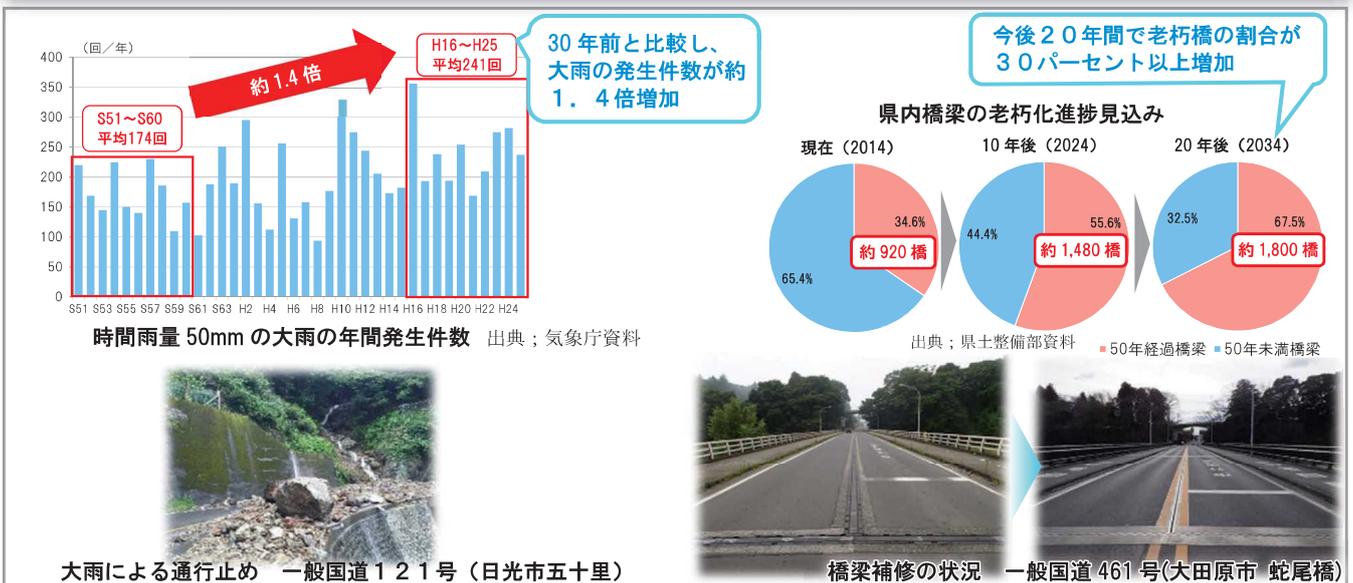


*通学路優先整備区間とは小学校から1km圏内で沿道に人家が存在し代替路線がない区間

産業や観光を活性化するための道路整備が必要

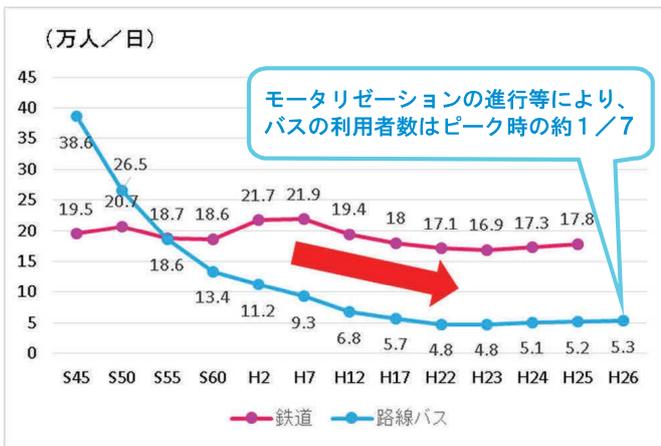


自然災害や老朽化に備える道路の強靱化が必要



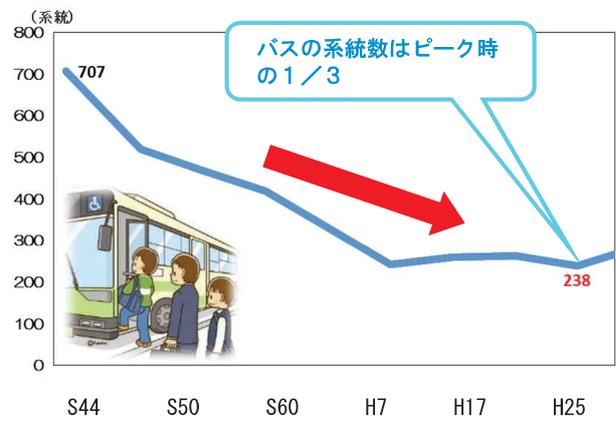
③ 公共交通ネットワークを取り巻く現状・課題

すべての人の暮らしを支える移動手段の確保が必要



鉄道・バスの輸送人員の推移

出典；とちぎの公共交通

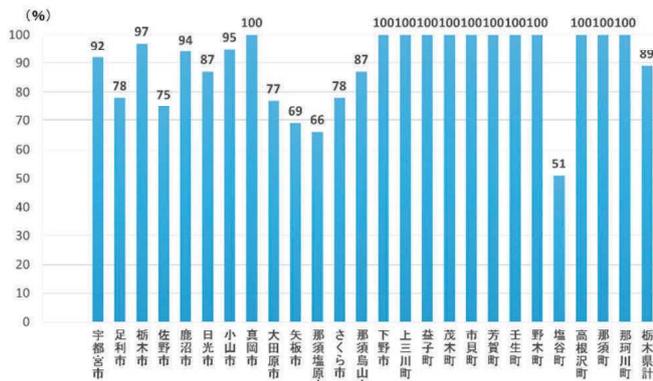


路線バスの系統数の推移

出典；とちぎの公共交通

地域の実情に応じた公共交通の運行が必要

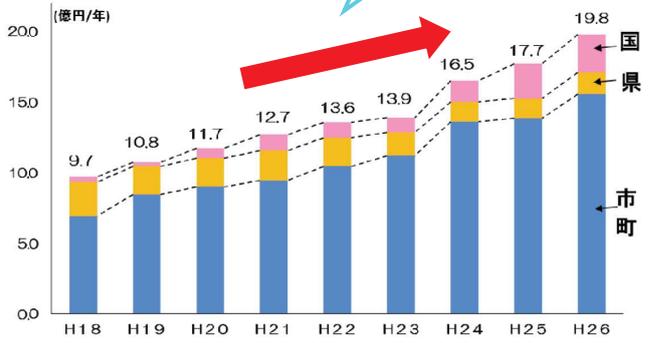
区域運行型デマンド交通の普及により、公共交通空白地域は減少しているが、まだ公共交通不便地域が存在



公共交通サービスの人口カバー率 (H27.4.1 現在)

出典；とちぎの公共交通

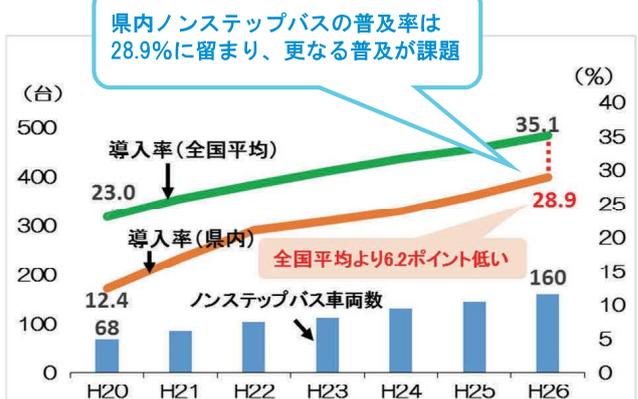
デマンド交通の普及が進む一方、公費負担額は増加



公費負担額の推移

出典；とちぎの公共交通

すべての人の快適な移動を支える公共交通の利用環境整備が必要



導入率 = ノンステップバス車両数 / バス車両数

ノンステップバスの導入状況

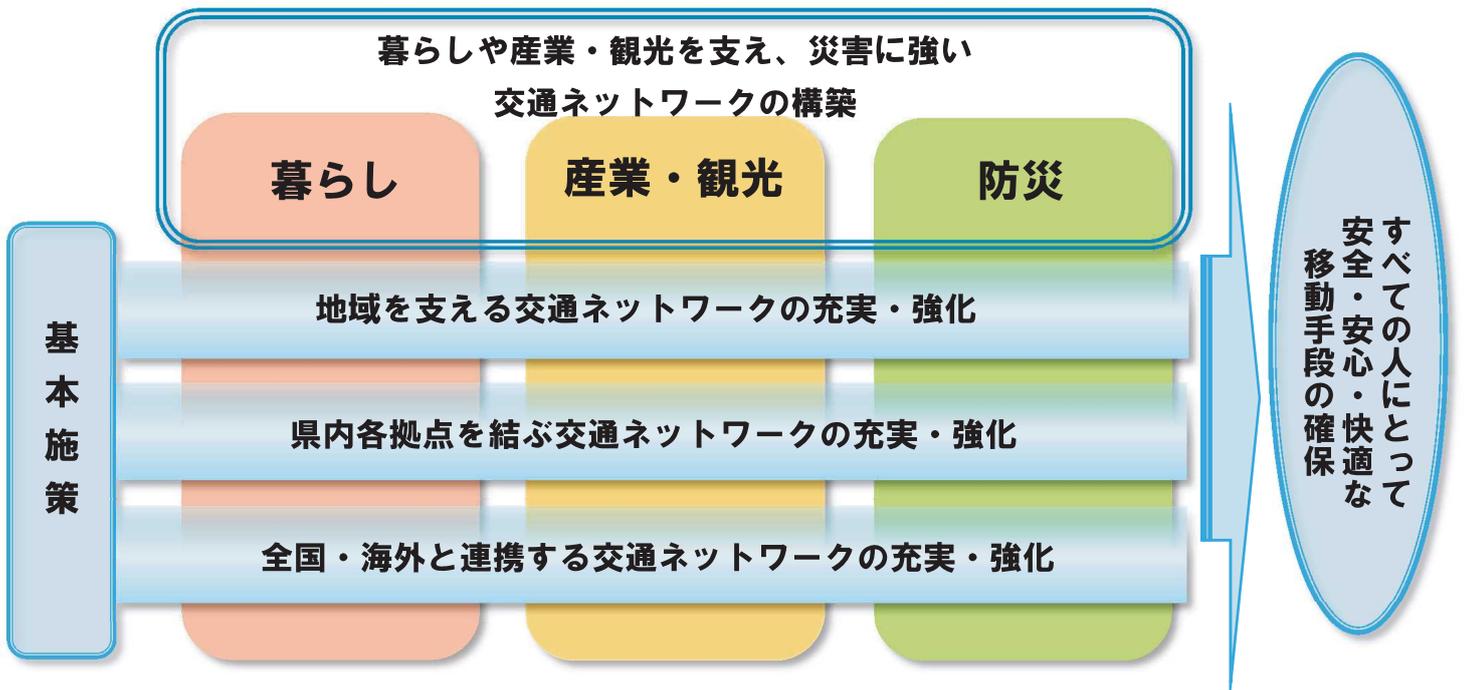
出典；国交省資料を基に作成

3 基本的な考え方

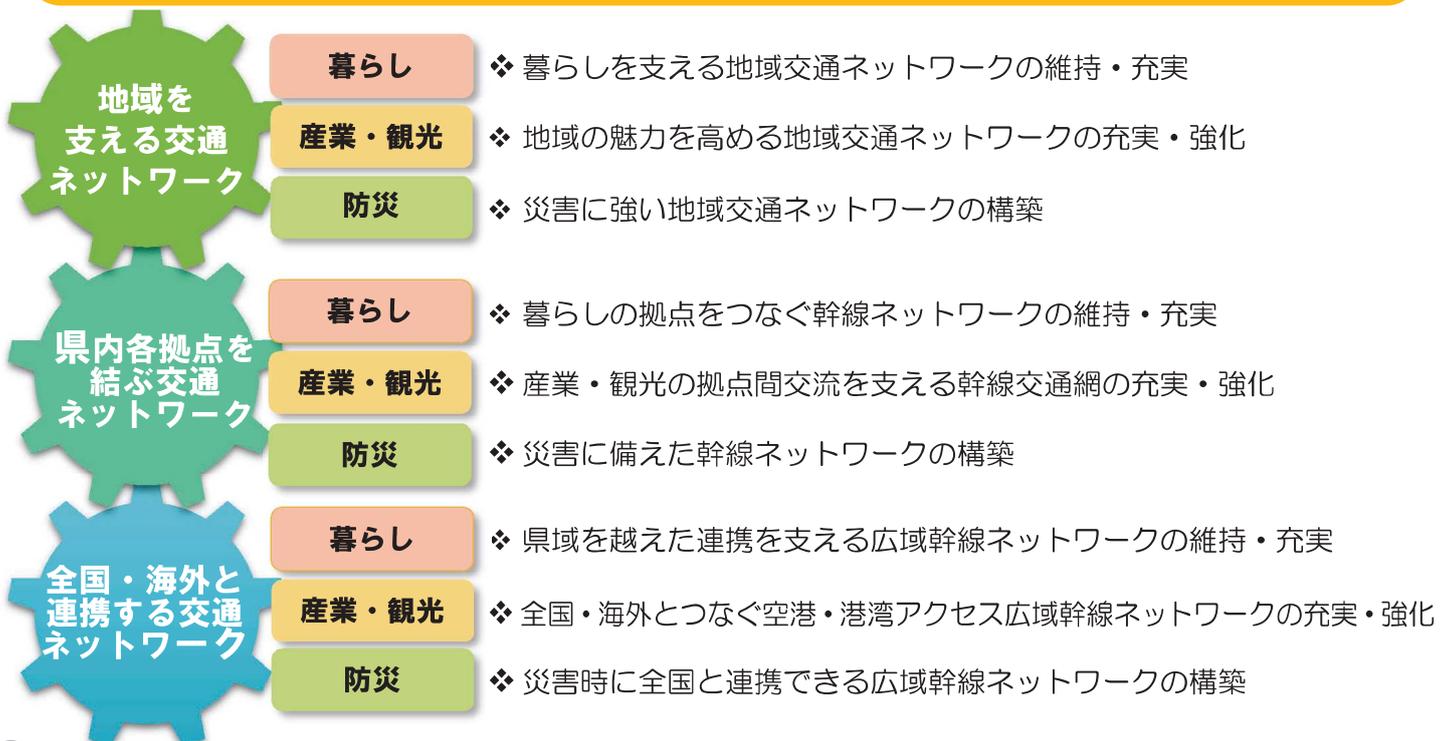
① 「とちぎの道路・交通ビジョン」において目指す姿と基本的な考え方

今後の交通ネットワークの構築を進めるにあたっては、地球環境にも配慮し『暮らしや産業・観光を支え、災害に強い交通ネットワークを構築』し「すべての人にとって安全・安心・快適な移動手段の確保」を目指します。

目指す姿：「すべての人にとって安全・安心・快適な移動手段の確保」



② 目指す姿の実現に向けた基本施策の展開



《地域を支える交通ネットワークの充実・強化》

「地域を支える交通ネットワーク」のイメージ



現状・課題

人口減少、高齢化が進行する社会において、地域活力を維持し、すべての人が安全で安心して暮らせる移動環境づくりが必要。

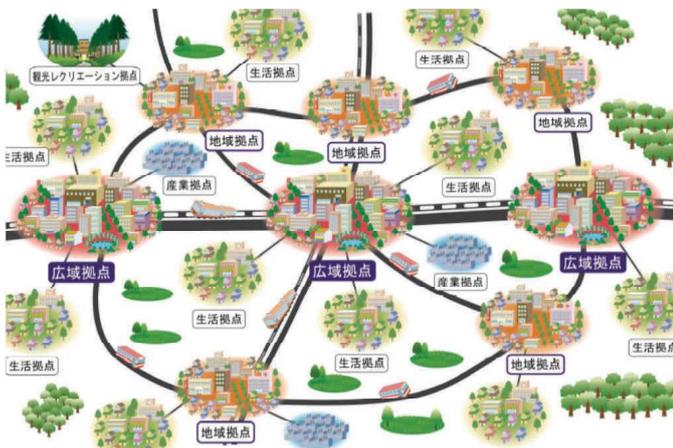
施策の方向性

中山間地域等の集落を支え、安全安心な暮らしを確保する交通ネットワークの形成に向け、歩道整備や自転車走行空間の確保、生活拠点とその周辺を結ぶ道路網の充実、生活交通の運行の維持・充実などを図ります。

また、災害に強い地域交通ネットワークの形成に向け、落石等の危険箇所解消や、道路や橋梁の耐震化・長寿命化を推進します。

《県内各拠点を結ぶ交通ネットワークの充実・強化》

「県内各拠点を結ぶ交通ネットワーク」のイメージ



現状・課題

コンパクト+ネットワーク型都市構造を目指す中で、県内拠点を結び、地域間の連携・交流を高めるための移動手段の確保が必要。

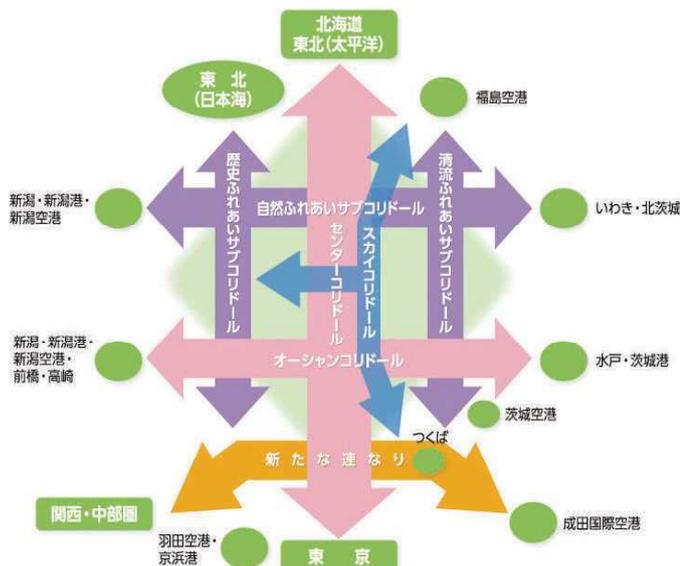
施策の方向性

暮らしや産業・観光における拠点間の連携・交流の基盤となる交通ネットワークの形成に向け、バイパス整備や観光周遊ルートを構築する幹線道路整備の推進、拠点間を結ぶ公共交通のバリアフリー化や乗換機能の充実等を図ります。

また、災害時防災拠点や地域拠点間を結ぶ交通ネットワークの形成に向け、緊急輸送道路等の維持・強化、道の駅の機能強化を図ります。

《全国・海外と連携する交通ネットワークの充実・強化》

「全国・海外と連携する交通ネットワーク」のイメージ



現状・課題

本県のさらなる産業・観光の振興や防災力の強化に向けて、首都圏を始め県域を超えた連携強化や、空港・港湾等へのアクセス性の向上が必要。

施策の方向性

県内外を結ぶ広域幹線道路網の維持・充実に向け、高速道路のアクセス性向上や鉄道網の利便性向上を図ります。

また、全国のみならず海外からの来訪者にもやさしい交通環境づくりに向け、案内標示の多言語表記や観光地への交通手段の確保を図ります。

災害時にも県外とつながる広域ネットワークが機能するよう、緊急輸送道路等の防災・減災機能の強化充実や代替道路網の整備を推進します。

4 ビジョンの実現に向けた施策と主な取組

① 地域を支える交通ネットワークの充実・強化

暮らし

中山間地域等の集落を支える 交通網の充実

- ◆ 地域の実情に応じ「地域共助型生活交通」※等の導入支援
※過疎地域や郊外集落など、公共輸送サービスが十分に提供されない地域において、地域住民やNPO等が運営する自家用有償旅客運送制度等を活用し、生活移動手段確保について支援します。
- ◆ 中山間地域等の集落と生活拠点を結ぶ道路網整備 など



地域共助型生活交通導入イメージ

暮らし

暮らしの安全を確保する 道路網の整備

- ◆ 学校周辺通学路の歩道整備
- ◆ 死傷事故が多い事故危険箇所対策
- ◆ 歩行者・自転車の安全な通行のため、自転車歩行者道や自転車通行帯を整備 など



歩道・自転車道の整備（足利市 福居町）

暮らし

すべての人の暮らしを支える 生活交通の維持・充実

- ◆ 生活交通の維持・充実に支援
- ◆ バス停上屋・ベンチ・駐輪場の整備
- ◆ ノンステップバスの導入支援 など



市町が運営する生活交通

バス停上屋設置

暮らし

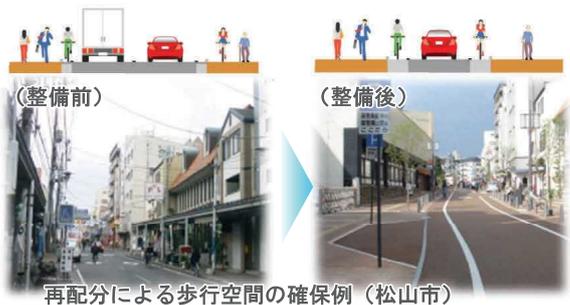
産業・
観光

地域の魅力を高める道づくりの推進

- ◆ 来訪者が快適に歩ける街並みに配慮した歩道等の整備
- ◆ 道路空間の再配分による歩行者や自転車を中心としたゆとりある道づくり など



街並みに配慮した歩道整備（日光市 松原町）



再配分による歩行空間の確保例（松山市）

防災

安全・安心を支える災害に強い交通網の構築

- ◆ 災害を未然に防ぐための落石等危険箇所解消、道路や橋梁の耐震化・長寿命化
- ◆ 災害発生時の円滑な避難、救助活動等を行うための幹線道路整備や避難所周辺の道路整備 など



危険箇所の解消（日光市 上栗山）

橋梁の修繕

② 県内各拠点を結ぶ交通ネットワークの充実・強化

暮らし

拠点間の連携・交流を支える
幹線道路網の整備

- ◆ 拠点間の移動時間短縮や交通渋滞解消に向けた道路拡幅、交差点改良、バイパス整備
- ◆ 鉄道駅へのアクセス向上のため駅周辺道路等整備など



移動時間短縮のためのバイパス整備（矢板市 本町）



鉄道駅へのアクセス道路整備（宇都宮市 雀宮駅前）

暮らし

産業・観光
拠点間の移動を支える
公共交通網の維持・充実

- ◆ 広域バス網の維持・充実や鉄道駅のバリアフリー化
- ◆ 第三セクター鉄道の経営安定化を支援
- ◆ LRT等の新たな交通システム導入に向けた市町の取組支援
- ◆ ICカード導入支援 など



真岡鐵道の運行状況



民間の路線バスのトランジットセンター



LRT導入イメージ（富山）



鉄道駅バリアフリー化

産業・観光

産業・観光拠点への
幹線道路網の強化

- ◆ 産業や観光拠点へのアクセス道路の整備
- ◆ 幹線道路の渋滞・事故対策の強化
- ◆ 観光周遊ルートとなる幹線道路整備 など



産業拠点へのアクセス道路整備



観光道路の整備
（国道119号日光市 いろは坂）

強化が必要な観光道路
（国道121号 日光市藤原龍王峡）

産業・観光

産業・観光拠点への公共交通網の
維持・充実や利用環境整備の推進

- ◆ 観光拠点を結ぶ第三セクター鉄道の維持・充実
- ◆ 鉄道駅での二次交通*への乗り換え機能の充実
- ◆ IT技術を活用した二次交通の利用案内の充実など



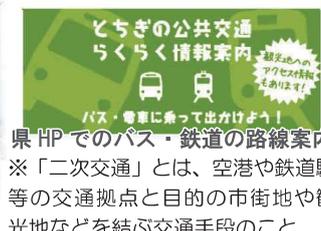
真岡鐵道（蒸気機関車 C11）



わたらせ渓谷鐵道（通洞駅）



野岩鐵道（中三依温泉駅）



とちぎの公共交通
らくらく情報案内
※「二次交通」とは、空港や鉄道駅等の交通拠点と目的の市街地や観光地などを結ぶ交通手段のこと。

防災

災害に備えた
緊急輸送道路網の強化

- ◆ 災害に備え、多様で代替性のある幹線道路網整備や、緊急輸送道路の維持・強化 など



緊急輸送道路の狭隘部を整備（那須烏山市 高瀬トンネル）

防災

防災拠点としての
道の駅の機能強化

- ◆ 道の駅が、避難や物資輸送などにおいて防災拠点として機能強化 など



○情報提供施設

情報提供施設



太陽光パネル設置

③ 全国・海外と連携する交通ネットワークの充実・強化

暮らし

産業・観光

広域首都圏※との連携を支える
広域幹線道路網の強化

- ◆ 高速道路のアクセス性向上に向け、スマートICの新規整備を支援
- ◆ 高速道路ICにアクセスする道路の強化
- ◆ 地域高規格道路の整備や直轄国道の機能強化など



スマートIC整備（全景）
（例：上河内スマートIC）



スマートIC整備（出入口）
（例：上河内スマートIC）



真岡IC周辺道路整備
(国)408号真岡南BP



一般国道119号 宇都宮北道路

暮らし

広域首都圏※への通勤・通学を支える
鉄道網の維持・充実にに向けた取組の推進

- ◆ 東北新幹線、JR在来線、東武鉄道各線の利便性向上等に向けた取組を推進 など



東北新幹線 宇都宮駅



東武日光線 栃木駅

産業・観光

全国・海外からの来訪者にもやさしい
交通環境づくりの推進

- ◆ 全国・海外からの来訪者にやさしい道路案内や公共交通利用環境整備

- ◆ 観光地への二次交通の確保に向けた取組を支援 など



平成通り
Heisei-dori Ave.



華厳の滝
Kegan Falls
道路標識の英語併記



多目的ホール
Multi-purpose hall
施設案内の多言語表記



バスのりば
Bus Terminal
20m 巴士乗車处 버스터미널



西口
West Exit
宇都宮市役所
Utsunomiya City Office
乘換案内等の多言語併記



TOCHIGI Free Wi-Fi
Wi-Fi環境整備の促進

※広域首都圏とは、首都圏（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県及び山梨県の1都7県の区域を一体とした区域）と、これらに隣接する4県（福島県、新潟県、長野県及び静岡県）を一体とした区域を称したものの。

防災

県内外を結ぶ広域防災ネットワークの強化

- ◆ 県内外と連携する緊急輸送道路の防災・減災力向上
- ◆ 災害時の代替道路網の整備 など

（整備前）



（整備後）



緊急輸送道路の防災対策（日光市 五十里）



緊急輸送道路の6車線化（新4号国道）

5 「県土60分構想」の変遷



◆ 2001(H13)

「県土60分構想」

- ◆ 平成13年(2001年)作成
- ◆ 平成13年以前から同様の考え方はありましたが「構想」として取りまとめました。
- ◆ 次の3点を目標に掲げ、体系的な道路網の整備に取り組みました。
 - ① 県内各地域と宇都宮市(県庁)とを60分以内で連絡する
 - ② 高速道路インターチェンジに30分以内で連絡する
 - ③ 県内主要都市を60分以内で連絡する



◆ 2006(H18)

「新たな県土60分構想」

- ◆ 平成18年(2006年)作成
- ◆ 「県土60分構想」の充実に加え、公共交通と自動車の「連携」と「役割分担」による総合的な交通体系の構築が必要であることから、次を目標に掲げ、「誰もが、どこから、どこへでも、安全・スムーズに移動できる交通網の整備」に取り組みました。
 - ① 道路整備を推進
 - ② 公共交通の充実・連携



◆ 2011(H23)

「人にやさしい県土60分構想」

- ◆ 平成23年(2011年)作成
- ◆ 少子高齢化・グローバル化・環境問題などの社会情勢の変化へ対応するため日々の暮らしや仕事、観光など「人の移動」の重要性を構想に含め、「新たな県土60分構想」を継承するとともに、次の3つの基本的考え方にもとづき「人の移動の安全性・快適性・定時性の向上」を目標とし整備を行ってきました。
 - ① 暮らしの「安全安心」を支える道路交通網の整備
 - ② とちぎの「活力成長」を生み出す交通網の整備
 - ③ とちぎの「人や環境」にやさしい交通網の整備



◆ 2016(H28)

「とちぎの道路・交通ビジョン」～県土60分構想2016～

- ◆ 平成28年(2016年)作成
- ◆ 前構想に「地域内交通ネットワーク」「県内拠点間交通ネットワーク」及び「全国・海外へ広がる交通ネットワーク」の連携性向上を加え、「暮らしや産業・観光を支え、災害に強い」交通ネットワークの構築に取り組み、「すべての人にとって安全・安心・快適な移動手段を確保」を目指します。
 - ① 「暮らしを支える交通ネットワーク」
 - ② 「産業・観光を支える交通ネットワーク」
 - ③ 「災害に強い交通ネットワーク」

VERY GOOD LOCAL

とちぎ

とちぎブランド推進のキャッチフレーズ

ベリー グッド ローカル とちぎ
VERY  GOOD LOCAL

「グッドローカルなとちぎが地方のモデルになっていこう。」
ローカルの良さが詰まったとちぎが、前向きな決意を込めて宣言します。



栃木県県土整備部交通政策課

〒320-8501

栃木県宇都宮市埜田 1-1-20

TEL 028-623-2377

Fax 028-623-2399

E-mail kotsu@pref.tochigi.lg.jp

URL <http://www.pref.tochigi.lg.jp/h03/index.html>



古紙配合率80%再生紙を使用しています